



日 口 交 流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



初めてのロシア語 (ロシア語合宿・箱根)

新江 日和

8月26日、27日の2日間で、私は芦ノ湖で開催されたロシア語合宿に参加させて頂きました。

幼少期に、バレエを習っていた経験がある私は、ロシアの芸術や音楽に興味がありました。現在、ロシアはウクライナ侵攻などで世界中から経済制裁を受けたり、日本でも、駅でロシア語表記の案内がなくなるなど、ロシアを避けているように思います。しかし、このような時代だからこそ、私はロシアを知ることが大事だと考えました。私の母が、日口交流協会会長の服部文男さんと知り合いだったこともあり、服部さんにこの合宿を紹介していただきました。

私はロシアに興味を持ち始めたもののロシア語を学んだことは一度もなく、「こんにちは」さえも言えない状態でした。ですが、未知の言語だからこそ学んでみたいと思いこの合宿に参加しようと思いました。この合宿の参加者は、先生二人を含め計8人、周りは全員大人の方で高校生は私一人だけでした。参加者の方の中には、仕事でロシア語を使っている方々や、今までずっと学んできた方々など、ロシア語が堪能な方ばかりで、初心者私は私だけでした。芦ノ湖は、東京の暑さとは違うものの、まだまだ蒸し暑い2日間でした。

一日目の26日は、13:30から18:30頃までの約5時間、ロシア語を学びました。初級コースはウラジーミル先生と服部さんと私しかおらず、実質的に生徒は私1人でした。はじめは、ロシア語のアルファベット33文字を順番に発音していきました。日本語にはない発音や、巻き舌で発音するもの、英語のアルファベットと



違う発音をするものなど、難しいものが多いですが、生徒が私しかいなかったため、ゆっくりと分かりやすく教えていただきました。そして、ウラジーミル先生がロシアで撮った写真などを見せていただきながら、ロシアがどのような場所か楽しく知ることができました。隣の部屋では中級コースの方たちが太鼓で沖縄のエイサーを踊っていてにぎやかな音が聞こえたので、少しだけ合流して一緒に踊ったりして楽しかったです。

アルファベットを発音したら、次にその使い方、そして、ロシア語に外来語として入ってきた語などを教えていただきました。外来語としては英語からのものが多く、予測できるものがいくつかありました。途中途中でロシアの様々な話を聞いたり質問したりと、和気あいあいとした雰囲気の中でロシア語を学ぶことができ、あっという間に5時間が経っていました!

18:30からは全員で、宿でつくられた和食の夜ご飯をおいしくいただき、その間にも様々な話を聞きました。その後は2次会となり、部屋でお菓子を食べながらいろいろなお話を聞きました。夜中の23時半過ぎには、外に出て花火をしたり、とてもきれいな星空を見たりととても楽しい時間でした。

二日目の朝の空気はとても気持ちがよく、外やロビーでゆっくりと過ごし、7:30から朝ごはんを食べ、9時から12時までロシア語を学びました。一日目のようにアルファベットを確認してから、さらにちょっとした文法や色々な単語を学びました。覚えるまではできませんでしたが、単語が読めるようになったり、男性名詞、女性名詞、複数名詞などを推測できるようになりました。宿を出てから4人で芦ノ湖沿いにあるお蕎麦屋さんで昼食を頂いて、新宿行きのバスで帰路につきました。あっという間の2日間でしたが、全く知らなかったロシア語を学び、語学だけでなく、ロシアという国がどのようなところか、ロシアと関わっている方々のお話などを聞くことができ、高校夏休み最後の忘れられない経験となりました。ありがとうございました。

お知らせ

●ロシア料理講習会

日時: 2023年10月28日(土) 10:00~14:00

場所: 田町「リーブラ」料理室

会費: 2500円

●日本の家庭料理講習会

日時: 2023年10月14日(土) 9:30~13:00

場所: 田町「リーブラ」料理室

会費: 2500円

●講演会「日口、日中の外交の現場に立って—中露国境問題の解決の分析他」(仮題)

日時: 2023年11月26日(日) 15:00~17:00

会場: JR新橋駅生涯学習センター「ばるーん」303学習室

講師: 井出敬二氏(立教大学大学院兼任講師)

会費: 会員・学生・外国人1500円、一般2000円

●ロシア語教室生徒募集中!

水曜初級1A-1(19:00~20:00) 1A-2(20:05~21:05)

土曜上級(10:00~11:30) 月曜準中級(18:00~19:00)

*見学できますので、事前に事務局までご連絡ください。

お申込み、問合せ: NPO日口交流協会事務局

Tel: 03-5563-0626 E-Mail: nichiro@nichiro.org

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらかでも結構です。服部文男氏にご協力いただきました。ありがとうございます。

振込先: 郵便口座00160-9-66486、加入者名: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org
Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752 *なお、お振込みの際に、寄付であることが分かるようにお名前の前に「01」とお入れください。よろしく願い致します。

プーシキン大学短期留学記

福留 聖司

この度、モスクワ市の A. S. プーシキン記念国立ロシア語大学 (以下、プーシキン大) における、夏期ロシア語短期留学プログラム (8月28日～9月23日、オンライン形式) に参加しましたので、概要と感想等についてご報告させていただきたいと思います。本プログラムは、日本人のロシア語初級文法修了者を対象とした教育プログラムで、かつては実際の短期留学でしたが、コロナ禍以降はオンライン形式での開催となっています。

授業はモスクワ時間の朝10時に開始、一日に1コマ90分授業を3コマで休憩時間を含め時間は5時間半ですので、日本時間では16:00開始、21:30終了となります。プログラム開始前に、プーシキン大との zoom 接続試験があり、その際数分程度担当教員と話をしましたが、それがレベル分けのテストも兼ねていたようで、中上級者向けのグループ1と初級者向けのグループ2に分かれました。

私はグループ1となりましたが、授業内容は発音訓練のほか、例えば「成功とは何か?」、「自己肯定感を上げる方法は?」等の抽象的な内容についてロシア語で討議したり、自分の町や好きな場所についてロシア語で紹介するなど多彩な内容でした。授業は当然すべてロシア語で、時々教員の言っている内容が分からないこともあり逃げ出したい気分となることもありましたが、なんとか無事に修了できそうですので、受講を通じ学んだ点を以下に3つ紹介したいと思います。

一点目は、咄嗟の場面では使い慣れた表現しか使えないという点です。咄嗟の質問に答える際、やはり普段から言いなれている表現でなくては、即座に口から出てきませんでし

た。そのため、普段の訓練 (音読、リプロダクション等) の重要性を改めて認識しました。

二点目は、ロシア語で考えることの重要性です。先述したように、授業では抽象的なテーマについて討議することも多かったのですが、その際に日本語で考えをまとめロシア語に訳そうとすると、大体途中で行き詰まることに気が付きました。自分の場合、日本語とロシア語の語彙量が圧倒的に違うため、必ず訳せない単語に突き当たるためです。そのため、最初から使い慣れたロシア語の表現、単語を用いて考えをまとめた方が、スムーズに話せると気が付きました。

三点目は、間違いを恐れないことの重要性です。初期の授業で、教員からも「間違いを恐れるな」と言われましたが、ロシア語の複雑な文法をあまりに気にし過ぎると、言葉が出てこなくなるというのは実感しましたので、まずは間違いを恐れず、話すのに慣れることが重要だと思いました。

プログラムはもう終盤ですが、他の受講者のレベルの高さに驚いたり、モスクワ市のいまの話が聞けたりと、得るものの多い貴重な機会となりました。そして、ロシア語を学ぶ場合、日本国内で学ぶことも可能ですが、可能ならばやはりロシア留学の機会を持った方が良いと感じました。できればオンラインではなく、実際の留学で。私自身はロシアへの長期留学は一生叶わないかもしれませんが、これからロシア語を学ぶ皆さんは、大手メディアの流す情報だけに惑わされず、自分の手で現地の情報を掴んだ上で、留学を検討されてはいかがでしょうかと思います。

(ロシア極東連邦総合大学函館校・ロシア語科2年)

国際放送史研究の戯言No024

モスクワの本屋巡り

島田 顕

史料調査のためにモスクワを訪れた際、文書史料館、図書館での調査とともに、必ずやるのが書店巡りである。

モスクワで最も有名な本屋は、「ドム・クニーギ」(本の家)だ。だが残念なことに、専門書は皆無に等しい。しかもソ連時代の「閉架システム」がそのまま維持されていた。

「閉架システム」では、店員がいるカウンターの背後に書架があり、客が直接本を手にとって選ぶことができない。万引き防止のためである。客が欲しい本があるときは、店員に「あれ取って」「あの本見せて」と言って、取ってもらうのである。わざわざ店員の手を煩わせることになるし、買わないと気まづくなるので、必ず買わなければならない。客にとっては自由に本が選べないのでストレスを感じざるをえない。このシステムはロシア独自のもの、ソ連時代の悪弊なのだとずっと思っていた。社会主義時代、書籍も国家財産であり、窃盗は重罪に処せられたからだ。実は後になって知ったのだが、このシステムはロシア独自、ソ連独自のものではなかった。ドイツでもこのシステムがあり、おそらくヨーロッパ由来のものということだった。由来はともかく、このシステムが維持されていたために、「ドム・クニーギ」は閑散としていて、お土産物屋と化していた。一度行ったきりで二度と行くことはなかった。

都心で有名な本屋はトゥヴェルスカヤ通りの二つの書店、プーシキン広場近くの「ドゥルジバ」(友好)書店と、ユリー・ドルゴルーキー像真横の「モスクワ」書店である。こ

の二つは「ドム・クニーギ」のような「閉架システム」ではなく、自由に本を手に取り、選ぶことができる。だが一般書店なので、専門書はあまりなかった。歴史書コーナーもあるのだが、一般的なものばかりだった。

一般書店だが専門書も多く取り揃えているのが、ルビャンカ広場近くの「ビブリオ・グローブス」(本の世界)書店である。歴史書コーナーでは、ロシア史、世界史とも、古代から現代のものまで数多くあり、多くは一般書だが専門書も充実している。ここで、史料集『コミンテルンと第二次世界大戦』や第二次世界大戦期の外交文書集を買ったことがある。もちろん開架式で、直接本を手にとって読み、選ぶことができるので、何時間でもいることができる。いつ訪れても人でごった返しているし、レジ前でも長蛇の列ができています。

それでは歴史の専門書はどこで買うことができるか。まず都心では、ルガスピ(ロシア社会政治史文書館)の一階にある書店である。ここはルガスピの一階に位置していることもあって、現代史関連が充実している。レーニン図書館に入って入口手前の書店も必ず訪れるようにしている。また都心から離れるが、地下鉄「アカデミーチェスカヤ」駅近くのロシア科学アカデミーロシア史研究所建物の受付前の書店も歴史書専門店である。

本屋については、まだまだ書きたいことがあるので今後もちょくちょく書こうと思う。

《モスクワ・アラカルト77》

ニキータが中央大で講義！

日向寺 康雄

7月初めから約ひと月、ニキータ(33)が日本に滞在した。彼は、私がモスクワで働いていた折、我が家に長らく居候していた男で、今では私にとって最も近い「ロシアの息子」的存在だ。

この時期、招待ビザを用意するのは容易ではなかったが、千葉副会長から数々のアドバイスを頂き、奇跡的に取得できた。日本で彼は、寿司や刺身、天婦羅、ウナギを食べまくり、毎日のように温泉に通って私の懐を震撼させたが、私が教える大学の講義にも気軽にサンダル履きで(写真のスニーカーは筆者が急遽購入)出席し、ロシア人としての立場を率直に語ってくれた。

彼は、南ウラル連邦大学を金メダルで卒業後(専門は歴史)、故V・チェレプコフ下院議員(元原潜艦長でウラジオストク市長)の秘書となり、チェリャビンスクからモスクワにやってきた。ウクライナにも1年ほどいて、ティモシェンコ元首相関係の政治組織で働いた。常にプーチン政権を支持してきたわけではないが、親欧米的な「民主派」とは、はっきり距離を置いている。以下、彼の講義を聴いた中大法学部生(29名)の感想から一部抜粋して、御紹介したい。

「現在のロシアを『観る』授業だった」「勿論、彼が話していた内容の中にはテレビや書籍等で『専門家』を自称する人々が語っていた内容もあったが、改めて『ロシア人』から語られることで不思議な納得感を持って受け止めることができた」「生のロシア人から直接話を聞けることは日常生活においてほぼなく、今回の授業は本当に新鮮で貴重だった」



「彼の言葉の中で文字通り『ハッ』とさせられた部分があった。それは陰謀論に片足を入れている話ではない。BRICS諸国が、ドル建ての取引を止め始めているという事だ」

「どちらが勝つか、どちらが負けるかを考えている第三者=ロシア、ウクライナを除く国は、ただ自分の国への影響しか考えていない。ロシアは庶民であればあるほど結束して

いるというお話をお聞きし、意外と長くなれば分裂、仲間内での争いが生まれると思っていたので驚いた。どちらが勝つか、勝ち負けを求めるのではなく、止めることが一番の勝ちに繋がるのではないか」「プーチンが今やっていることについて、ニキータさんは、プーチンが自分の人生が長くないことを前提に、他国からの批判もあるが、ロシアがロシアであるために、ロシアが生き残っていくために、プーチンの政治的な意思を次の世代に示そうとしているのだとおっしゃっていた。確かに、ロシアが分断されてしまった過去を経験しているロシア人からすると、プーチンのやり方はロシアを復活させたやり方であり、自国に対する誇りの高いロシア人がプーチンのやり方を肯定するのは合理的なことかもしれない。またロシア人も核兵器を使うことに対して肯定しているのではないということを感じ、少し安心した。しかし、被爆国に生きる日本人として、私は政治的なことはよくわからないが、一人の市民としては、やはり軍事的な圧力を用いるのは良くないと思う。」

(元モスクワ放送チーフアナ、現中大及び早大非常勤講師)

赤いあのキノコ

キタヤマ 忍

いよいよ本格的なきのこ狩の季節。きのこ愛あふれるロシアでは、今年もSNSにきのこ狩を楽しむ様子や籠いっぱいの子の自慢が投稿されています。

先日ロシアの方と日本では食べないきのこもロシアでは食べているという話になり、実は極上の美味しい毒きのこがある、と告白されました。それは簡単に毒抜きできるけれど、念のために子供にも家族以外にもあげないそうで。

先日、モスクワから北北西に約170kmにあるヘラジカ保護施設の動画を見ていたら、ヘラジカ達がベニテングダケをなんとも美味しそうに食べているではありませんか。赤くかわいいのに実は毒なあきのこ。日本でもリスや鹿が食べると聞いたことはありましたが、施設のヘラジカも食べて吐いたりする様子もなく、おかわりをねだるほど。施設のアルトゥールさん曰くベニテングダケはハエの駆除効果があるので**мухомор**(ハエの死)という名称だそうです。そして「ベニテングダケの傘が絶品」と。

彼のこの発言に多くの人が反応しました。「処理はどうしています?私は塩を入れて茹でていますが」「ピクルスも美味しいですよ」待て待て。食べる人結構いるのね。そして例の極上毒きのこはこれだったのか!調べてみるとロシアのみ

ならず世界中に魅せられた人々がいて、日本では長野県の一部地域で保存食としても重宝される伝統食なのです。

ベニテングダケの毒・イボテン酸は旨み成分グルタミン酸の10倍の旨みを持っています。人との歴史は古く、このきのこの起源とされるシベリア地方ではシャーマンが儀式で使用したり、リラックス効果を得るために食べたり、また北欧ではバイキングがその興奮作用で士気を高めたりと、その毒ゆえに特別なきのこでした。

歴史と実績があるとはいえ毒きのこ。長野県の伝統食としていただく以外はお勧めしません。

ロシアのヘラジカはモスクワやペテルブルク周辺にも生息しており、トロフィーハンティングによって減少が危惧されています。今回のヘラジカ保護施設では狩猟や飼育放棄等による孤児や怪我を負ったヘラジカを保護しています。

施設HP: <https://brotherhoodofmoose.simdif.com>

(ビデオグラファー)



ウズベキスタン便り

ウズベキスタンでの干し柿プロジェクトについて

川端 良子

日本ウズベキスタン協会では、JICA草の根事業を受託し、8月からウズベキスタンのサマルカンド州パスタルガン地区とオクダリオ地区で「干し柿を用いた副収入向上のための技術移転モデルの確立」を始めました。



サマルカンドインベーション大学

農業は、ウズベキスタンの主要な産業の1つで、GDPに対する農業部門の貢献は25.5%です。農村部の総労働力と生産年齢人口の70%以上が農業部門に従事しています。人口の半分が農村に居住していることから、地域開発には農業復興が欠かせません。しかし、都市と地方の所得格差は近年拡大の一途を辿っており、多くの農家で外国への出稼ぎ労働者がいて、現金収入を彼らからの仕送りに頼っているのが実情です。

ウズベキスタンの農業は、100ha規模の大規模な農業法人、国から土地を借り、労働者を雇用している数10ha規模のフェルメル、1ha以下の小農デフカンによって行われています。農業人口では、デフカンが7割以上を占めています。また、総農業生産量の7割は、農地全体の11.3%しか所有していないデフカン農家によるものです。しかし、外国のドナーによる政府系への援助は主に農業法人、フェルメルを対象としており、小農のデフカンへの海外からの援助は非常に少ないのが現状です。そのため、デフカン農家は地方マーケットや仲買に安価に農産物を販売するしか現

金収入の方法がありません。

一方、ウズベキスタンでの柿栽培は旧ソビエト連邦時代の1970年代ごろから盛んになったといわれています。近年のウズベキスタン政府の政策によりさらに植樹が進み、世界第6位です。しかし、柿は生食用であり、収穫期が重なり短期間に大量に供給されるため、市場で価格1キロ1ドル以下と他の果物と比べてとても安く販売されています。そのため、市場に販売することなく木のうえで鳥のえさになっている柿が多くみられます。さらに、ウズベキスタンはドライフルーツ生産が盛んであるにもかかわらず、干し柿を作成しているところはほとんどなく、柿をスライスして干したものが生産されているにすぎません。

そこで保存のきく、干し柿にして付加価値をつけて販売を行うことで、半分近くを捨てていた柿から農家の現金収入を増やすことを目的にこのプロジェクトを始めました。

11月に日本タイプの干し柿作成の技術指導のワークショップをサマルカンドで実施する予定です。また、12月2日にはカウンターパートであるサマルカンドインベーション大学（旧タシケント州立農業大学サマルカンド校）の学長とプロジェクト責任者を招聘し、日比谷図書館で講演会を行う予定です。参加無料ですので、ご興味のある方はぜひともお越しください。

(NPO法人日本ウズベキスタン協会理事長)

野口芳雄氏/陽一氏の思いで(4)

畔上 明

「日本海貿易」での一年目は、楽しい思い出の背後に於いて少しずつ会社の財政状況が悪化していく様子が見え隠れしていましたが、臨時雇用の木材検収員が契約解除となったことから会社への抗議活動が激化していったことが最初の兆候でした。

大手商社がダミーとしての友好商社を利用しなくとも直接ソ連邦と取引出来るような時代へと変化する中、親会社としての「丸「日本海貿易」同窓会紅」が「日本海貿易」を手放し、代りに「王子製紙」の傘下となったことで、「王子」からの出向者が要職の席を幾つか占めていきました。

前年度までのお先知らずの好成績から「日本海」としての自社ビルを購入、1975年春には神田の大木須田町ビルから日本橋のストークビル本石に引越を行うと共に、私は木材部から管理部管理課に移動、Mくんは系列会社の「日本チップ貿易」に出向となりました。管理課課長渡辺氏は王子製紙から来られた頭の切れる方で、私に簿記の第一歩から始めて企業の数字の見方に至るまでを教えて下さり、数値管理の為王子本社内にある巨大なコンピューター本体と端末機を電話機で繋ぎ、先輩のN氏と共にフォートランやコボルといったプログラミングを学習しながら即実践していったのでした。

一方、子会社である「日本海映画」は黒澤明監督によるモスフィルム制作「デルスー・ウザラー」の現地協力に携わっていました。1974年春よりロシア極東で一年を掛けて撮影された映画は1975年夏に日比谷有楽座で封切られ話題を呼びました。私として



2007年11月17日に開催された

も販売促進に熱を入れ取引先銀行外為課の方々を通じるなどして大量のチケットを捌き、試写会では黒澤明監督や主役のマクシム・ムンズク氏らとお会いする忘れ難い思い出が刻まれたのでした。そうした中で「日本海貿易」の主力取扱品である北洋材輸入に伴い前年度の内に百航行以上の備船契約を交わしていたため、オイルショックによる木材価格の大幅下落となっても配船解除も適わず市況を見て入港を調整すれば滞船料に苦しむばかりの火の車。

入社二年目にして小さな会社が嵐のみこまれる脆さに直面し、将来の展望が見えぬ絶望感、自分のみならず同僚たちの先行き不安を思うと眠れぬ日々、その悪夢を頭の中では必死に堪えようとしていました。社会生活ののちに大学院で新たな学びの場へ進んでいった学友に影響されて我が人生を考え直さねばとも思いました。

結局のところ二年間で日本海貿易を去ることとなり、その時期の失恋による人生の立て直しの意味もこめて二十代半ばの1976年足掛け九か月のユーラシア放浪の旅に出掛けるに至ったのです。70年代には「日本海貿易」が倒産、スタッフは散り散りになってしまいました。「日本海映画」の野口陽一常務は残念なことに混乱の中五十歳前後の若さで他界されましたが、どうにか生き延びた「日本海映画」は貿易会社物資部の数名を吸収するかたちで株式会社「日本海」としてソ連邦崩壊まで存続、その後は「ロシア映画社」として生まれ変わり21世紀へとまたがることを山内巖さんが代表となって活動されインターネットでもその様子が窺えたのですが、数年前にはその情報も途絶えてしまいました。